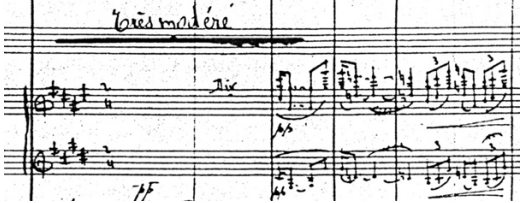



## 平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	教員海外研究支援経費
研究者氏名・所属・職名	佐藤 淳一・旭川校・講師
研究題目	C.ドビュッシー《ラプソディ》の成立過程の研究
主たる滞在地名及び属する国名	フランス パリ フランス国立図書館及びパリ国立高等音楽院附属図書館
滞在期間	平成29年12月16日～平成29年12月21日
研究内容及び成果の概要	
<p>アメリカのサクソフォン奏者であったエリザ・ホール女史が1901年にC.ドビュッシーに委嘱した作品である《ラプソディ》は、ドビュッシーが亡くなるまで完成することがなく、死後にロジェ＝デュカスが補筆して完成させたものの、その成立過程は未だ多くの未知の部分があった。今回はフランス国立図書館及びパリ国立高等音楽院附属図書館に収められているドビュッシー自身の手稿譜からその成立過程の一旦を明らかにすることとした。</p> <p>フランス国立図書館には2つのロジェ＝デュカスが補筆した《ラプソディ》のスコア、「MS-1001」（オーケストラ・スコア）と「MS-1001 bis」（ピアノ・スコア）が保管されている。《ラプソディ》を委嘱したエリザ・ホール女史に関する研究の第一人者であるWilliam Henry Streetの著書「ELISE BOYER HALL, AMERICA'S FIRST FEMALE CONCERT SAXOPHONIST: HER LIFE AS PERFORMING ARTIST, PIONEER OF CONCERT REPERTORY FOR SAXOPHONE AND PATRONESS OF THE ARTS」にはこれらのスコアについて以下のような見解が記されている。</p> <p>「2つ目の原稿はフルスコアで、フランス国立図書館にあり「MS1001」とナンバリングされている。この原稿は当初レオン・ヴァラによってロジェ＝デュカスの手書譜であると考えられたが、最近調べられて、これは1903年付けの作曲家による自筆書類スコアと認証された」（筆者訳）</p> <p>上記の「作曲家による自筆書類スコアと認証された」という記述について筆者は疑問を持っていた。何故なら《ラプソディ》においてドビュッシーはスケッチしか残しておらず、オーケストラ・スコアやピアノ・スコアはロジェ＝デュカスが作成したという記述の方が多く、ドビュッシーの年譜と照らし合わせてもそれは事実たり得るからである。そこで筆者は「MS-1001」とフランス国立図書館に所蔵されているロジェ＝デュカスの他のスコアとを比較することにした。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>Roger-Ducasse 《Rapsodie》 Manuscript (MS-1001)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>Roger-Ducasse Other Works Manuscript</p>  </div> </div>	
<p>両者を比較すると特徴的な井やpの書き方がほぼ一致しており、「MS-1001」及び「MS-1001bis」がロジェ＝デュカスの手によるものであるということは間違いないであろうということが分かった。今回入手した「MS-1001」と「MS-1001 bis」及びロジェ＝デュカスのスコアには様々な検証すべき課題があり、今後の研究にいかしたい。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【学術論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤淳一、C.ドビュッシー《ラプソディ》の成立過程の研究、サクソフォニスト、第29号、投稿済み、2018年</li> </ul>	

教育現場で活用可能な分野等

音楽科教育などで作曲の成立などを探求する際に利用可能である。

配布又はダウンロード可能な資料

CD-R10枚

問合わせ先

代表者：佐藤 淳一

電 話：0166-59-1339

FAX :

mail : sato.junichi@a.hokkyodai.ac.jp